

高知県の

山村を歩く

武吉孝夫写真集

## 目次

高知県の山村を歩く	5
註釈	279
撮影場所一覧	280
写紙が届いた日々	282
響き合う写真と言葉	284
出版の記	286
小林勝利	282
中村淳子	284
武吉孝夫	286

## 凡例

1. 本書は、高知県立歴史民俗資料館において令和4年10月7日(金)～12月4日(日)に開催する企画展「武吉孝夫写真展―高知県の山村を歩く―」の写真集である。
2. 写真キャプションは、おもに字名によって撮影場所を記載し、その市町村名等を280頁の撮影場所一覧に掲載した。
3. 写真が一頁全体にわたる場合は、見開きの隣接する頁に写真キャプションを記載した。



JR佐川駅ホーム

高知県の山間部では今、急速な高齢化が進んでいる。さらにこれからどうなってゆくか、予測だにつかない。それは高知県にとどまらず全国的な傾向でもある。

このような時代の変わり目を記録にとどめておきたいと思い、小林勝利さんと佐川駅で落ち合うことにした。

長くなりそうな撮影行の出發記念に、佐川駅の駅長さんに声をかけ、汽車待ちのお客さんにシャッターを押してもらった。

なぜ初対面の駅長さんに入ってもらったかというのと、たとえ記念写真であつても、社会や時代、地域性をその一枚に加味させたかったからである。

平成十九年四月二十二日

土佐の山間は河川の支流や孫流、そのまた支流の脇に在る集落も多い。

ここは物部川の最上流、西熊川と東熊川の落ち合う集落。山羊を飼う日さんを撮らせてもらった。

山羊が何か話でもしたいような表情をして、こちらを見るのだった。



突然足下からカラスが飛び立った。

その直後、足を滑らせころび、畦道から下の道に落ちた。

髀すねと腕うでとカメラを打ちつけた。

カメラは角かどが凹へこんだが壊れてはいなかった。さすがニコンF3。

髀すねは擦すり剥むけ、しばらく痛かった。が、何より「とろくなったもんだ」と  
思い知らされた事が、もっとこたえた。

齢としの事も考えて、山村を歩く時は気を付けねば。



重谷



干上がった旧大川村庁舎を撮ったのは先週。

今度は目いっぱい六連放水である。

近年の異常気象を物語っている。岩の割れ目から、二、三分に一回程度、水が吹き上がっていた。

年に一度、あるかないかの歓喜のダンスを踊っているのだろうか、又はささやかな雄叫びを上げているのであろうか。



秋葉祭り最大の華は練り。

中でも七メートルの鳥毛棒の投げ合いには、どっと観客の喚声<sup>こゑ</sup>が上る。他の場面は哀調を帯びて、ゆっくりと進む。

買ったばかりの望遠（百ミリ）レンズで狙<sup>あ</sup>ってみた。見物の人集<sup>ひと</sup>りのない、練習中だから撮れた贅<sup>ぜい</sup>沢な現場であった。

